

野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第213号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 2023年9月21日

ノゴマ



2023.6.28 石狩川河口

撮影者 鎌田 要子（札幌市厚別区）



も く じ

ネパール探鳥旅行 247種を記録	札幌市厚別区 早坂 泰夫	2
【私の鳥見スタイル】		
出退勤途中の河川敷、そして自宅から徒歩の街中で	江別市 武藤 幹太	4
道南の遊楽部川河口 ミカドガンの飛来と換羽の観察	渡島管内八雲町 田澤 和夫	6
【野鳥情報コーナー】		
鷓鴣川河口でコシヤクシギを観察 胆振管内むかわ町 門村 徳男		7
シギ・チドリの探鳥地 いしかり調整池 会員が環境整備活動を実施		7
【バードウォッチャーズ・スケッチブック】		
鷺絵は茶道でも難題だ アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ 札幌市中央区 本間 康裕		8
探鳥会ほうこく/表紙の鳥		10
探鳥会あんない/鳥民だより		16

※本誌に掲載する写真のカラー版は、当会ホームページ(<https://aigokai.org>)で閲覧することができます。

ネパール探鳥旅行 247種を記録

札幌市厚別区 早坂 泰夫

2023年4月11日に出発、23日に帰国のネパール探鳥旅行で、247種の野鳥を観察することができました。ネパールは、東西約800km、南北約200kmの四角形をした国土です。その地形は変化に富んでいて、南は標高の低いタライ平原（標高60～80m）が帯状に広がり、その北にカトマンズ盆地を含む丘陵地帯（標高1,000～4,000m）があり、最北端が8,000m級の高峰の連なるヒマラヤ地域の山岳地帯となっています。地理的にも気候的にも多様な自然環境があることから、多様で豊かな生態系ゾーン（鳥類も含めて）が形成されています。現在、およそ900種の鳥類が生息していることがわかっています。



写真1. シロボウシカワビタキ 2023.4.12

<日本語が堪能な野鳥ガイド>

ツアーの内容は関東在住の知人のK氏にお願いし、私たち夫婦と北海道野鳥愛護会の会員5名を含め総勢8名が参加しました。カトマンズの空港でガイドのテク（Tek Gharti Magar）さんの出迎えを受け、「ナマステ!」の挨拶とともに、歓迎の花のレイをかけていただきました。テクさんは、「ヒマラヤ・バーディング」所属の野鳥ガイドで、観光、トレッキングのガイドも行える有能な方です。何より日本語ができ、ネパールの野鳥をすべて日本語で伝えてもらえます。たくさん野鳥を見ることができたのも、テクさんの力に負うところが大きかったと思っています。

到着した12日午後は、カトマンズ郊外のトカへ。パフマムシクイ、アカマシコ、コモンアカゲラ、クリハラゴジュウカラなど47種を記録。川の橋では、嬉しい出会いもありました。岩の上になんと、シロボウシカワビタキ（写真1）が現れました。ネパールの野鳥図鑑と同じく、頭頂部が白、上部は黒、下部と尾羽の赤茶という姿にすっかり見入っていました。見たかった1種を初日に見ることができたのです。

<チトワン国立公園～低地の鳥>

チトワン国立公園はカトマンズの南、広大なタライ平原の一角にあります。東西80km、南北23kmに及ぶ亜熱帯林や草原の環境ですが、開拓などで急速に失われた自然を保護するため、1962年にネパールで最初の自然保護区に、1973年に初の国立公園に指定され、1984年にユネスコの世界自然遺産に登録されました。絶滅が危惧されている一角のインドサイ、ベンガルトラなども生息し、鳥類は500種以上確認されています。



写真2. オオハクセキレイ 2023.4.14

ここにはラブディ川を渡し舟で渡りました。降りた河原では、さっそくオオハクセキレイ(写真2)、カタグロツメバゲリ、ササゴイなどを見ました。公園入口でサファリジープに乗り、草原を進みます。ここでしか見ることのできないハシボソヤブチメドリをなんとか見ることができました。



写真3. カワリサンコウチョウ
2023.4.14

この日は前述の鳥のほか、セキショクヤケイ、リュウキュウヨシゴイ、カンムリワシ、アオショウビン、インドコムドリなど84種を記録。翌日は川沿いの環境で、アカアシトキ、スキハシコウ、アジアエンビコウ、アカツクシガモ、チャバネクイナ、シロハラクイナなど83種を記録できました。

＜ポカラとダンプス～高地の鳥＞

山に囲まれフェワ湖に面するポカラに入り、標高1,800mのダンプスで、人気の「つきのいえ」に2泊しました。18日には3時間ほど歩いて探鳥、ヤマザキヒタキを近くでじっくりと観察。尾根からはヒマヤラハゲワシ、クロハゲワシ、エジプトハゲワシの飛翔が見られました。ハゲワシは日本ではほとんど見られませんので、貴重な機会となりました。

フェワ湖の湿地草原では、珍しいオガワコマドリ。英名Bluethroat(ブルースロート)という通り、喉には青い斑がありました。さらにダンプスからポカラへ戻る19日、溪谷沿いの道を横切っていた電線に巣造りをしている色彩の鮮やかな鳥を見つけました。オナガヒロハシ(写真4)です。きれいな緑、黄色、青色のカラフルな姿を見ることができ、嬉しいひと時でした。

ポカラの最終日は日本山妙法寺(World Peace Pagoda)周辺へ。朝食をとったカフェのテラスから畑の方を見ていると体長25cmぐらいの茶色い鳥が現れ、畑で餌を探しているようでした。ネパールでは唯一の固有種であるタテジマヤブチメドリ(写真5)でした。喉から胸にかけて黒い縦縞のあるのが特徴で、大満足で山を下りました。



写真4. オナガヒロハシ 2023.4.19



写真5. 固有種のタテジマヤブチメドリ 2023.4.20

＜カトマンズ盆地も多種の鳥＞

カトマンズに戻り、盆地を囲むフルチョウキ山(標高2,760m)では、オオスズメフクロウ、チャガシラコウグイス、キバラムシクイ、ミドリオタイヨウチョウ、チャイロウソなど1日で64種を記録。最終日の22日、シバブリ・ナガルジュン国立公園では午前の2時間でタカサゴモズ、オオルリチョウ、オナガヒロハシ、ヒメアオゲラ、ハイノドチメドリ、モンツキイソヒヨドリなど34種を記録することができました。

＜247種 日本でおなじみの鳥も＞

記録を整理すると、8月15日現在、247種になっています。ネパールは生物地理区の分類では「旧北区」と「東洋区」に属し、日本の分類と同様です。日本と同じ種を見るだろうと予想はしていましたが、カワセミ、ヤマセミ、ダイサギ、コサギ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アオアシシギ、クサシギ、トビ、サメビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、ニューナイスズメなど37種と、予想より多かったと感じています。

似ている種は、クロシジュウカラ、キバランジュウカラ、オジロゴジュウカラ、オジロノビタキなど。オオハクセキレイは写真2のように顔は黒く、日本のセグロセキレイに似ている色合いです。大きさは21cmで一回り大きく分類的にもセグロセキレイに近いようです。

予想をはるかに超えた種類の鳥を見ることができ、ネパールの魅力がまた一つ増えました。残念だったのは、春霞でヒマラヤの山々をほとんど見るができなかったことです。トレッキングした2007年に見たヒマラヤの山々の景色を機会があればもう一度見てみたいと思っています。

私の鳥見スタイル

出退勤途中の河川敷、そして自宅から徒歩の街中で

江別市 武藤 幹 太

<暗中模索のスタート>

まずは、簡単に自己紹介を。探鳥会でお会いする皆様はご存じかもしれませんが、よく息子と二人で愛護会主催の探鳥会に参加しています。

鳥見を始めたのは、父親から一眼カメラを譲り受けたことがきっかけでした。とにかく何でも撮ってみたいと野鳥撮影に挑戦したことが始まりです。

鳥見歴は約2年で、まだまだ駆け出しのビギナーです。初めはどこへ行けば鳥に会えるのかもわからず、とりあえず野幌森林公園に行けばなんとかなるだろうと安易に考えていました。しかし行ってみると、声はすれど姿は見えず。経験のない自分にとって野鳥観察は大変難しく感じるものでした。まだ野鳥に関する知識も皆無で、それでもクマゲラとフクロウに会いたいと思い、当てもなく森の遊歩道を歩いていた時でした。

2021年3月、まだ雪の残る森の中をフラフラと歩いている私に声をかけ、フクロウの見える樹洞を教えてくれたのが愛護会の先輩でした(写真1)。この出会いが後に愛護会へ入会するきっかけとなったのは言うまでもありません。



写真1. 初めて見たフクロウ 2021.3.23 野幌森林公園

<鳥見のフィールドは夕日がきっかけ>

5月も下旬に差し掛かり、日に日に木々が葉を繁らせ、素人の私には鳥たちの姿を探すのが難しい季節になってきました。そんなある日、夕日でも撮影してみようと思い地元・江別市の石狩川河川敷へ出かけました。よい景色を探して車を走らせていると、土手の草むらからたくさんの鳥たちが飛び立つのが目につきました。

ここなら自分にも鳥が見つけれられるかもしれないと思い、翌日の明るい時間に訪れてみました。そこは思った通り、私には鳥たちの天国のような場所に感じられました。それからは、河川敷へ出かけることが多くなりました。初心者でしたので、とにかく「たくさんの鳥を見ること」を第一に考えて通い始めました。

<チュウヒとの出会い>

通い始めた時期もあって、河川敷ではたくさんの夏鳥を観察できました。ノビタキ、コヨシキリ、オオジュリン…。初めて見る野鳥たち。それもかなりの数です。

初めは車を止めて歩いて観察していたのですが、なかなか鳥との距離感が掴めません。どうやったら鳥たちともっと自然に付き合えるのか、そんなことを考えながらひたすらに歩いていた時です。

ある晴れた夕方、スーッと大きな猛禽が目の前を横切りました。低空を滑るように飛翔するその猛禽は、トビとは明らかに違うシルエットでした。浅いV字を保ってヒラヒラと滑翔(写真2)し、時にホバリングをしてはフワリと地面に降り立つ。その姿に魅了されてしまいました。チュウヒでした。



写真2. V字のチュウヒ 2022.4.21 江別市・石狩川河川敷

<近づいてきた野鳥たちとの距離>

チュウヒは出るポイントが広いです。しかも、姿を見られるとすぐに遠くに行ってしまう。どうしたものかと考え、車に乗ったまま観察をすることを試してみました。

そうすると、歩いて探鳥をしていた時よりも近距離で観察することができる機会が増えてきました。おまけにチュウヒだけではなく、ほかの鳥たちも同様にぐっと近くで観察できるようになったのです(写真3)。

それぞれの野鳥の習性もだんだんと見えてきました。草原を好む鳥、笹藪を好む鳥、林の近くを好む鳥、開けた場所を好む鳥、水場の近くを好む鳥…。どこに行けばどんな鳥と会えるのか、どこを探せばどんな鳥が見つかりやすいのか。そんなことも見えるようになってきました。

それに伴って、図鑑の見方も変わってきました。写真や識別のポイントなどよりも、生態や習性、生息環境や鳴き声などに注目するようになりました。この経験が生き、初めての場所、未見の鳥でもなんとか姿を見ることができるようになってきました。そして、きっと今まで気づきもしなかった鳥たちが、意外と身近に存在していることも知りました。

タカなんて山に行かなければ出会えないものと勝手に思い込んでいたのです。車を運転していても思わぬところで思わぬ鳥に出会うことも多くなり、以来出かけるときは常にカメラを積んでいます(笑)



写真3. ノビタキ 2022.4.26 江別市・石狩川河畔

<朝夕の出退勤の前後に>

春から秋は、ほとんどが河川敷に行つての鳥見です。早春と晩夏の鳥が少ない時期には歩いて探鳥することもあります。幸い、現在の職場は観察地からすぐの所にあるので、出勤前と退勤後に鳥見をすることが多いです。

早朝、窓を開けてゆっくりと車を動かしながら鳥の声を聞きます。夕方、チュウヒの観察では、よく出るポイントで車を止めて待ちます。暑い日にはエアコンも効かせることができるので待ち時間も快適です。また、多少の雨降りでも気にせず観察することができます(写真4)。



写真4. 雨の中のノゴマ 2022.5.13 江別市・石狩川河畔

この時期は、繁殖のために滞在している鳥がほとんどですので無闇に追い回したりして余計なプレッシャーを与えることを避けるように心がけています。ですが、まだまだ野鳥との距離感がわかっておらず、不適切な行動もあるかもしれません。いつまでも野鳥たちの生き生きとした姿が見られるように、より深く勉強していきたいと思っています。

<自宅から歩いて行ける街中で>

昨冬には新たな楽しみも見つけました。それは、自宅から歩いて行ける街中で鳥見をすることです。街路樹の実が多くなる年には、江別市内でもたくさんの鳥が見ら

れます。ムクドリやツグミ、レンジャクなど群れで行動する鳥が多いので、観察していても飽きません。それに、そのようなお馴染みメンバーの中には、時に珍メンバーも交ざっていることがあります。たくさんの中からホシムクドリ(写真5)やシロハラ(写真6)を見つけた時は、宝探しで宝物を見つけたようでとても嬉しかったです。住宅地での鳥見なので、周辺の住宅や歩行者への配慮は必要かと思いますが、こんなスタイルもありなのかと思っています。



写真5. ホシムクドリ 2023.2.5 江別市



写真6. シロハラ 2023.2.18 江別市

<野鳥の視点で見えてきたこと>

最後に、鳥見を始めてからの自分自身の変化を少し書きたいと思います。私はこれまで、自然環境に対して割と気にしている方だと思っていました。風力発電やソーラーパネルも自然エネルギーという肩書きのみで環境にもいいものなのではないかと考えていた節があります。

しかしながら、野鳥の目というフィルターを通して、物事に対する見方、考え方に新たな視点が加わりました。そういう目で見てみると、私の生まれ育った江別も随分と違った姿が見えてきます。現状、幸いなことに江別市では様々な野鳥がこの地を選び、住み着いたり繁殖に利用したりしています。我々人間だけではなく、自然に生きる全ての生き物にとっても住み良い江別がこれからも守られて行くことを願ってやみません。その為の私なりの情報発信ができればとも考えています。愛護会の皆様には、これからもたくさんのことを学ばせていただきたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

道南の遊楽部川河口

ミカドガンの飛来と換羽の観察

渡島管内八雲町 田澤和夫

渡島管内八雲町は市街地の北側にオジロワシが飛来する遊楽部川が流れております。この川で2022年7月18日午前10時ごろ、写真仲間の柴田昭三氏とカワセミを待ち受けていたところ、河口付近の中州に見慣れない野鳥を発見撮影しました。

調べたところ、アラスカやロシアのチュコト半島で繁殖し、通常、日本には渡らないミカドガン（写真1）です。これまで国内で2回の観察例しかないと知って驚愕しました。このミカドガンは夏季に遊楽部川河口付近に27日間長期滞在し、その間に換羽が行われました。私の観察を報告します。



写真1. 観察初日のミカドガン 2022.7.18

▼7月18日の発見当時は20分ほどの観察で、その後上流へ飛翔し見えなくなりました。

▼翌19日は、河口から700mほどの八雲大橋からの観察でした。そこには以前から観察していたマガン1羽がいて、2羽は行動を共にしており、ミカドガンが所在不明になる8月14日まで、まったく離れることはありませんでした。

▼7月21日からは、河口中州の川岸から30mほどまで近づいても逃げず、人懐っこさを感じました。このころから、ほぼ同じような時間帯で（1日4回ほど）同じ場所に現れ、中州の若草や苔、河口付近の海草を採食していました。また、天気の良い日に、中州の川岸で腹ばいとなり、頭を下げてコックリコックリと居眠り…。警戒心がほとんどなく、その光景を見たときは、つい噴き出してしまいました。

▼7月25日ごろからミカドガンとマガンの換羽（写真2）が始まったようで、飛翔する姿はまったく見られなくなりました。また、2羽の行動範囲が広くなり、本流の隣地にある沼でゆっくり泳いだり、中州でカモやウ、ダイサギと過ごすようになりました。

▼8月13日の夕方、ミカドガンが私に背を向け、お尻を振りながら上流へと消えていく姿を確認しました。翌14日朝には、ミカドガンの姿は見えませんでした。写真3は、姿が見えなくなった3日前の2羽の状況です。



写真2. 換羽中のミカドガン（左）とマガン 2022.7.25



写真3. 所在不明になる3日前のミカドガン 2022.8.11

14日には、山階鳥類研究所研究員の澤祐介氏が調査に訪れました。ミカドガンがいなくなったことを話したときの澤氏の落胆した顔は今も忘れることができません。澤氏は15日早朝から、冷たい川を着衣を脱いで中州へ渡り調査をしましたが、ミカドガンは見つかりませんでした。一方、マガンは別のところで、しばらく滞在を続けたのです。

澤氏からは、私と柴田氏の写真や動画から判断して間違いなく「日本で3例目のミカドガンが換羽した」との見解があり、柴田氏と安堵しました。ただ、8月5日に、中州付近でキタキツネがカラスを捕食しており、ミカドガンが所在不明になった時点で一瞬「捕食?」とも考えました。ミカドガンが換羽中に飛翔できない期間は28日から35日のようですが、この個体の換羽期間は、それに満たないものでした。それでも私は無事に故郷に飛び立ったと信じたく、別れを惜しみました。このミカドガンの夏季滞在と換羽については、澤氏が責任著者として2023年6月発行の山階鳥類学雑誌第55巻1号に論文掲載しています。

ミカドガン27日間、マガン52日間の滞在は一期一会、もう私がミカドガンに会えることはないでしょう。

ミカドガン、ありがとう。



鵠川河口でコシャクシギを観察

胆振管内むかわ町 門村徳男

1年ほど前の2022年5月5日のことです。胆振管内むかわ町の鵠川河口で、北海道では極めて希なコシャクシギを観察しました。この日は少し風が強めの時間もありましたが、一日晴れの良い天気で、午前9時30分頃からNPO法人バードリサーチに依頼された春のシギ・チドリ調査をしていました。

観察できたシギ・チドリは、まず鵠川左岸側では、鵠川漁港でコチドリ2羽、海岸域でキアシシギ6羽でした。右岸側に入りましたが、人工干潟の干潟は出ていなく、排水路は埋まっていた。コガモ、ハシビロガモ、カルガモがいて、奥の方の草の生えた北西側にセイタカシギが1羽いました。

そして南側から西側に行ってみると、草の生えた中から飛び出たものが1羽いて、草がまばらな見通しの効くところへ降りてくれました。私から30～40mのところでした。静かに屈み、数枚のシャッターを切りました。撮影時間は午後2時30分頃でした。あまり見たことのない鳥と思いました。

数日後にプリントをし、図鑑と見比べたらコシャクシギではないかと思いました。バードリサーチに写真を添



コシャクシギ 2022.5.5 鵠川河口

えて報告すると、「間違いない」とのことでした。

コシャクシギはチュウシャクシギと比較すると体が一回り小さく、嘴は短いのが特徴です。嘴の下への湾曲はわずかです。シベリアで繁殖し、オーストラリア、ニューギニアで越冬します。日本には旅鳥として少数飛来しますが、主に九州で観察され、北海道での確かな記録は2010年5月の利尻島など少ないとのことです。私も20年間の初めての観察となりました。

シギ・チドリの探鳥地 いしかり調整池

会員が環境整備活動を実施



マリーゴールドなどの花苗の植栽 2023.6.20



シギ・チドリの探鳥地である「いしかり調整池」。当会は2018年に管理者・石狩土地改良区と協定を結び、花壇整備、トイレ清掃などの環境整備活動を行っています。

今年も6月20日、会員6人と改良区職員1人が3時間ほどかけてマリーゴールドなどの花苗150鉢を植えました。7月25日には会員8人が草取り、花柄摘み、水やりを行いました。このあと4回の活動を10月まで続けます。

バードウォッチャーズ・スケッチブック

鷺絵は茶道でも難題だ アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ

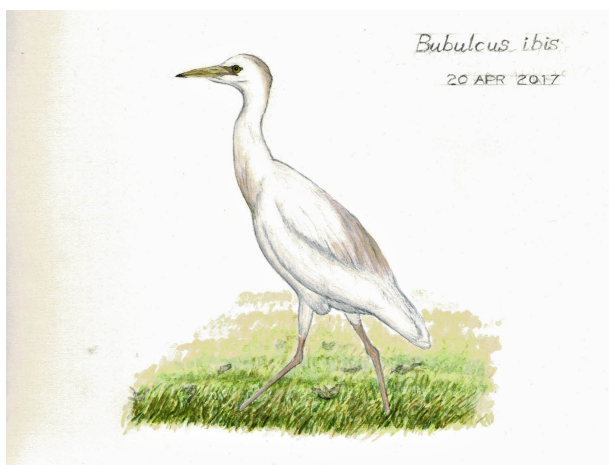
札幌市中央区 本間 康裕

ヘシラッサギイはーと鼻歌まじりで、いしかり調整池へ向かったのは2021年9月29日のことです。ああ、これは「白鷺三味線」という高田浩吉さん（俳優・歌手）の歌で、水面に立ってじっとしているサギの姿をひそかに愛し合う恋人同士にみたてたというオツなものです（といって、高田さんの歌は聞いたことがなく、芸人タモリの歌を知っているだけ）。でも、今回の目的は恋とは関係なく、白鷺の識別にあります。

白鷺というと、コサギ、チュウサギ、ダイサギあたりの白いサギを指すのでしょうか。アマサギも冬羽は純白なので、ちょんちょん括弧付きの“白鷺”に含めてもいいかもしれません。カラシラサギやクロサギの白色型、アオサギの白化個体などの白いサギもありますが、この際、石狩地方でポピュラーでないものは除きましょう（もっとも、アマサギも石狩地方ではポピュラーとはいえませんが）。さて、その識別となると…

<亜麻色の髪の乙女 アマサギ>

アマサギ、コサギは比較的簡単です。まず、アマサギ。これはアマチュアでも見分けられます。だからアマサギ？ 違う違う。プロアマじゃなくて、亜麻のこと。夏羽では頭部、頸部にオレンジ色の飾り羽が出ます（この時点でもう白鷺じゃないな）。これを亜麻になぞらえたんです。亜麻はアマ科の一年草で茎から繊維を取ります。その糸の色が亜麻色で、なかなか情緒的な和名です（「亜麻色の髪乙女」なんていう歌もありました）。



アマサギ 2017.4.20 米ハワイ州ホノルル

一方、英名はキャトルイグレット（キャトル＝家畜の牛、イグレット＝サギ）です。オックスフォード新英英辞典には「牛の群れが草を食べている周りで餌をとる」と説明があります。牛に驚いて飛び出してくる昆虫の類を食べているのでしょうか。和名に比べて直截的な命名ですが、ハワイでのあだ名はRubbish dump bird（ごみ捨て場鳥）。そこに何百となく集まっているからだとか（「A photographic guide to the birds of Hawai'i」 Jim Denny）。ひどい！

<金色の観音様 コサギ>

アマサギは飾り羽が亜麻色なので区別がつかますが、コサギ、チュウサギ、ダイサギは全身、純白なので厄介です。でもこのうちコサギは跗蹠（ふしよ）が黒で趾（あしゆび）が黄色なので見分けられます（と、いってもわからんでしょう。私も書いていてよくわからない。要するに黒タイツに黄色いショートソックスをはいた姿と思ってください）。



コサギ 2022.9.7 いしかり調整池

「日本霊異記」という平安前期の仏教説話集があります。仏教を信じたり、お坊さんを大事にすると、こんないいことがありますよ。そうしないと悪いことがありますよ～という事例集です。

この中巻第十七に「観音の銅像 鷺の形に変化（へんげ）して奇表を示す」という話があります。「大和の国の岡本の尼寺で観音の銅像が盗まれた。ある日、牛飼がある池のほとりに来ると、池の中に木の端があり、サギがとまっている。石を投げても逃げないので捕まえよ

うと池に入ると水に潜ってしまった。とまっていた木の端を見ると銅像の金色の指があり、持ち上げてみれば盗まれた観音像だった」(角川文庫「日本霊異記」板橋倫行校注を翻案)という内容です。

これは、コサギの趾が黄色いところから、水中にある色の観音像の指を連想した話ではないかと思いますがどうでしょう(もっとも日本霊異記の筆者、景戒は実話として記しているの、作り話だなんて書くと仏罰が当たるかもしれません)。

<難問 ダイサギとチュウサギの区別>

さて、残った難問がダイサギとチュウサギの区別です。名前の通りダイサギのほうが大きく全長90cm(「日本の野鳥650」平凡社より)、チュウサギ69cm(同)ですが、並んでくれないと、わからないし、頸を伸ばしたり、縮めたりすると大きさの印象は変わる。おまけにダイサギには亜種ダイサギと亜種チュウダイサギがいるとかで、付け焼刃のバードウォッチャーにはもうお上手いです。

と、悩みながら、石狩市北生振のいしかり調整池につきました。ここは農業用のため池ですが、夏が過ぎて水が抜かれると巨大な干潟と化して、シギ・チドリなど水鳥が集まります。最近(2020年代)はダイサギがわがもの顔で集まって、その中にチュウサギが交じるという状態です。見渡すと、いるわ、いるわ。ずらりと純白のサギが並んでいます。しばらく望遠鏡で眺めていましたが…わかりません! ダイサギとチュウサギでは口角の端の位置が違う(チュウサギは口角の端が眼の後端を越えない)というのですが、うーん。



チュウサギ 2021.9.29 いしかり調整池

仕方がないので比較的、体が小さな個体を選んで片っ端から写真を撮りました。家に帰って、その写真の何枚かを知人にメールで送りつけました。「この中にチュウサギはいますか?」(送られた方は迷惑だろうな)。ほどなくして返信メールがありました。識別点が縷々書かれ、「そのうちの1羽はチュウサギでしょう」とのことでした。それを描いておきました。

なんとなくわかったことは、チュウサギの頭は比較的丸くて、新幹線0系の先頭車両のような感じ。ダイサギの頭はおでこが目立たず、頭から嘴のラインは割り箸のように直線的〜というぐらいです。せっかく教えてもらったのに、まだ識別に自信はありません。やっと絵は描けましたが、白鷺は難しい。

<茶道の極意 鷺絵の会得とは>

そこで小説に出て来る「鷺絵は難しい」というエピソードを紹介しましょう。かの文豪、井上靖(旭川生まれなんですよ)の名作「本覚坊遺文」(講談社文芸文庫)の一節です。

かいつまんで書き出すと、時は天正13年(1585年)。大名茶人として名高い古田織部が、師である千利休に「数寄の極意は」と問います。つまり、茶道の根本理念は?といった質問ですね。それに対して、利休は「奈良の松屋にある徐熙の鷺絵を会得するなら天下の数寄を合点するであろう」と答えます。翌日、鷺絵を拝見した織部は「唐絵の名品ではあるがこれで詫び数寄を会得せよといわれても」ととまどいます。

徐熙とは中国五代南唐の画家で花鳥画の名人。その鷺絵は緑の藻の中に2羽の白鷺と2枚の蓮の葉が描かれたものだそうです。そして二十数年後、織部はこの絵の表装が傷んだため、どう繕ったらいいかとの相談を受けます。その時、織部は初めて利休の言葉を理解します。唐絵に日本風の表装をして茶室に掛ける(中国発祥の文物を和風に生かす)〜これが茶道の極意と悟ります。



ダイサギ 2021.9.29 いしかり調整池

それにしても、師の言葉の真意を知るまでに二十数年かかるとは。茶道の世界でも鷺絵は難題だったようです。徐熙の絵には及びませんが、アマサギは2017年4月20日に米ハワイ州ホノルルで見たもの。ごみ捨て場ではなくカピオラニ公園に集まっていました。コサギは2022年9月7日、いしかり調整池で。うまいぐあいに足をあげて黄色い趾を見せてくれました。チュウサギ、ダイサギはいずれも同池で2021年9月29日に見たものです。

(イラスト筆者)



会員外の初参加が目立ち、1回あたりの参加者も増えて賑やかな探鳥会が続いています。茨戸川緑地は初の定例会開催です。

藤 の 沢

2023. 5. 5

札幌市北区 佐藤 直記



エナガ 市橋栄二さん撮影

初めて参加させていただきました。夫婦ともども野鳥に関しての知識は乏しいのですが、探鳥会の探鳥コースや、小鳥の村の記載文に惹かれての参加となりました。

皆さんが集合され幹事の方からの説明をされている最中に、その真上をアオサギが颯爽と舞って行きました。いざ出発となり山に入ると、小鳥の声や気配を感じ取ることができました。その姿も確認できたのですが、肝心の名前がわかりません。皆さんの口頭での伝えや、呼びかけで少し把握できた状態でした。2羽が仲良く飛翔したり、木陰から見え隠れしたり、木を登ったり降りたりと自宅周辺の野鳥より動きが速く自由でのびのびした様子が新鮮でした。

結局、このまま名前もわからず終了かなと思いましたが、野鳥チェックリストで探鳥結果を確認することができました。早速、自宅に帰り野鳥図鑑でも照合できました。結果、コゲラ、ヒガラ、エナガ、ウグイス、キバシリ、モズ等々実物を見ていたことに感動を覚えました。

あらためて、鳥の鳴き声や水のせせらぎ、樹林の擦れ合う葉音も心地よいものでした。また、鳥の速さに驚き、思った以上に小さな小鳥が何種類も生息していることも知りました。そして、参加されておられる方々の鳥を探す能力の高さにも、驚かされました。カメラの機能を充分使いこなせない私の腕前では、美しい鳥の姿を捉えることは難しいことも思い知らされました。また、参加されている方々は、奥様の手を引いてあげる姿や、倒木に体重を載せて他の方達が通り易くなるために道を確保される方や、側溝を見つけるとその場に立って注意を呼びかけてくださる方な

ど、温かみのある方々の姿も素晴らしいものでした。

穏やかな天候にも恵まれ、自然の恵みに触れながら探鳥会に参加させていただくことができました。充実した心地よい一日となったことを、感謝させていただきます。

【記録された鳥】キジバト、アオサギ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ヤマゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、キバシリ、クロツグミ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 以上25種

【参加者】池田紀美江、市橋栄二、岩井幸子、大西智子、大町宏志、鎌田要子、草間峰子、小島俊幸、小堀煌治、齊藤潤太郎・律子、佐藤香織、佐藤直記・博子、佐野純子、品川睦生、杉山次郎、高島 均・明美 竹田芳範、辻 雅司・方子、辻 由美、鳥谷峰 修・由紀・心、中村 隆、早坂泰夫、萬谷慎太郎・利久子、平澤路生、藤代欣也、本間康裕、森本玲子、渡辺晶子 以上35名

【担当幹事】小堀煌治、中村 隆

野 幌 森 林 公 園

2023. 5. 7



エゾムシクイ 中村 隆さん撮影

集合場所でヤマゲラのつがいが見られ、巣作りをしていました。クロツグミ、アオジ、センダイムシクイなどのさえずりの中を歩きました。巣材を運ぶエナガが見られ、ヒーターキーという独特の金属音で鳴くエゾムシクイ、美声で人気のオオルリの姿が見られました。

【記録された鳥】オシドリ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、ツツドリ、トビ、コゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、カワラヒワ、アオジ 以上32種

【参加者】青木武男・あけみ、荒木良一、大橋路子、数田真弓、栗林宏三、小西美美枝、小島俊幸、笹原祐美、佐藤郁子、志藤邦子、高橋貞夫、竹田芳範、辰巳研一・昌江、辻 雅司・方子、道場 優、中村 隆、納谷明美、蓮井 肇・敏恵、畑 正輔、早坂泰夫、福士一徳、藤代欣也、藤田 潔、松原寛直・敏子、丸島道子、森田康志、森本英吉、門馬公生、山本育子、横山加奈子、吉田 功、吉田慶子、吉田道拓、吉田康子 以上39名

【担当幹事】畑 正輔、横山加奈子

千 歳 川

2023. 5.14

江別市 関根 良輔



オオルリ 関根大輔さん撮影

今回初めて60代夫婦と30代息子の3人で探鳥会に参加させていただきました。バードウォッチングとの出会いは、今年1月に妻が亜種シマエナガに魅了され、カメラが趣味の息子と千歳のバードウォッチングカフェや野幌森林公園に足を運んだのが始まりでした。

いつの間にか私も引きずり込まれ、さっそく夫婦で双眼鏡を購入、3月にはとうとう望遠カメラを購入するに至りました。家にも餌台を設置しておりますが、来るのはスズメばかり、一步公園に踏み入ると身近でこんなに多くの野鳥が見られるのかと驚きでした。

3月から夫婦で再開した朝のウォーキングも双眼鏡を持つてのウォッチングウォークになりました。いかんせん初心者のため、まだ姿や鳴き声で判別がつかず菌がゆい思いをしておりますが、経験を積むしかありません。カメラも初心者のため、息子を師匠に頑張って上達しようと思えます。体のための老後の趣味が一つ増え夫婦で喜んでいます。

今回の探鳥会で初めて観たカワセミの鮮やかな色は今も目に浮かびます。皆さんのお陰でアオジ、オオルリ、コサメビタキ、オシドリなども初めて観察することができ、久しぶりに見る美しい溪流には心が洗われる思いでした。気さくで大変和やかな探鳥会でした。これからは、愛護会の会員にいただき機会あるごとに参加させていただいて、先輩の皆様からいろいろ教を乞うことが楽しみになりました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い

します。

「待ってろよー、野鳥君たち！」

【記録された鳥】オシドリ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、キジバト、ツツドリ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、オオタカ、カワセミ、ヤマセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ 以上44種

【参加者】会川 隆、石井克文・浩子、石塚 肇・鈴子、井上 碧、猪俣行美、岩井幸子、大垣 創、小田リエ、河合千賀子、川端 純、菊地綾子、木下由美子・茜、草間峰子、栗林宏三、小西峰夫・美美枝、小島俊幸、小林敦実・恵、齊藤潤太郎・律子、佐川健次、佐藤香織、佐藤有佳里、杉山次郎、関根良輔・静子・大輔、高瀬小夜子、丹野美加、辻 雅司・方子、土田敏子、鳥谷峰 修・由紀・心、中野弘也・めりさ、中村 隆、納谷明美、畑 正輔、早坂泰夫、萬谷慎太郎・利久子、平澤路生、福島 文、丸勢文現・亜希子、南 貴和子、武藤幹太・大翔、本杉政司・朋子、森本英吉、門馬公生、山田正人・美鶴、山本育子、横地治雄、吉田慶子、吉見孝夫・紫乃 以上65名

【担当幹事】大垣 創、栗林宏三

鵒 川 河 口

2023. 5.21

河口へ向かう途中でノビタキ、ホオアカ、オオジュリンなどの草原の鳥を観察しました。カッコウやコヨシキリも鳴いていましたが、10時頃から雨となり、人工干潟に到着してすぐに引き返しました。風雨が強く残念ながらシギ・チドリは1種も観察できませんでした。



人工干潟に行く途中での探鳥

【記録された鳥】キジ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キジバト、カワウ、ウミウ、アオサギ、ダ

イサギ、カッコウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、トビ、オジロワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、コヨシキリ、ノビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラバト 以上29種

【参加者】石塚 肇・鈴子、臼田 正、大橋路子、北山政人、鈴木幸弥・順子、辻 雅司・方子、土田敏子、畑 正輔、森田康志 以上12名

【担当幹事】臼田 正

【早朝探鳥会】 野幌森林公園

2022. 5. 28

岩見沢市 田原 美幸



キビタキ 中村 隆さん撮影

昨年から健康維持のため、ウォーキングを始めました。始めた頃は、ただもくもくと歩いているだけでしたが、時折聞こえてくる鳥たちのさえずりが気になり、ふと足を止めるようになりました。鳥の姿を見つけると、可愛い姿をカメラに収めたくなり、そのうちカメラを持参するようになりました。帰宅後に撮影した写真を眺めていると、何という名前の鳥か知りたくなり、野鳥の本で調べるようになりました。鳥の名前がわかったときは喜びもひとしおで、もっといろいろな鳥を見つけて、名前を知りたい気持ちがどんどん高まっていきました。

ただ、鳥の鳴き声は聞こえるのに、どこにいるのかわからなかったり、いざ見つけて撮影しようとしてもすぐに飛んで行ってしまったりと、自分ひとりでは無理がありました。そんな時、主人が新聞で北海道野鳥愛護会の記事を見つけてくれました。それには、探鳥会の開催について詳しく掲載されていました。探鳥会に参加すればいろいろな鳥に出会えると思い、主人と一緒に初めて参加することにしました。

探鳥会当日、集合場所で待っている間、近くに飛んでいた鳥の鳴き声に担当幹事さんが「クロツグミだよ」と即座に教えてくれました。初めて聞く鳥の名前だったので、これからどんな鳥に出会えるのだろうとワクワクしながらス

タートしました。

森林の中を歩き始めると、さっそく鳥の声が聞こえてきました。鳥がどこにいるかわからなくても参加者全員の目で見ていたので、誰かが見つけてすぐに教えてくれます。幹事さんが、鳴き声ですぐに鳥の名前を教えてくださいました。木の枝に止まっている鳥の姿を捉えた望遠鏡をその都度、覗かせていただいたときは、なかなか鳥の姿を見つけれない私には大変ありがたかったです。

キビタキは喉のオレンジ色がとてもきれいで印象的でした。アオジは初めて聞いた名前の鳥で、いくら目で探しても姿が見つけれず、望遠鏡で見せていただいたときはとても嬉しかったです。初心者の方には、経験豊富な方々の説明がとても興味深く、大変有意義な時間を過ごすことができました。感謝の気持ちで一杯です。

これからも探鳥会に参加して、いろいろな鳥に巡り会って、鳥のことをもっと知りたいと思います。この度、主人と共に北海道野鳥愛護会にも入会させていただくことになり、今後ともよろしくお願いします。

【記録された鳥】オシドリ、カイツブリ、キジバト、アオバト、アオサギ、ツツドリ、カッコウ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、オオムシクイ、センドイムシクイ、ゴジュウカラ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、カワラヒワ、イカル、アオジ 以上31種

【参加者】阿部和代、石井克文・浩子、石塚 肇・鈴子、今村三枝子、岩宮千鶴子、大垣由美子、大西智子、小田聖子、木村 斉、小西美美枝、小丸香余、佐々木早苗、佐藤郁子、関根良輔・静子、高橋利道、竹田芳範、田原哲也・美幸、塚田浩子、辻 雅司、土田敏子、道場 優、富川 徹、長代拓真、中村 隆、畑 正輔、早坂泰夫、平澤路生、福士一徳、丸勢文現・亜希子、山田正人、吉田慶子 以上36名

【担当幹事】早坂泰夫、富川 徹

茨戸川緑地

2023. 6. 4

札幌市清田区 土田 敏子

お試し探鳥会から定例会になった茨戸川緑地。集合場所の事務所前に曇天の中にもかかわらず、たくさんの方が集まっていました。予定時刻の午前9時、すぐに見つけたのはトビ。これからどんな鳥に出会うのか楽しみでした。

緑地には、ビオトープ池・野鳥の森・水辺の広場・森林浴の森・眺めの丘・草原広場とエリアがあり、最初の野鳥の森では、カラ類が見られました。

進んだ先の水辺の広場あたりでは、コヨシキリが大きな声で猛アピール。その近くでは、初めてカッコウを見るこ

とができました。会の方には、カッコウ、ツツドリ、ホトトギスの見た目の似た鳥の区別の仕方や違いを教えてくださいました。このエリアでは、アリスイ、コムクドリ、エゾセンニュウなど多くの鳥を見たり、聞いたりできました。



カッコウ 筆者撮影

草原の広場へ進むと、茂みの中から明るく澄んだ声が聞こえ、誰かが「ノゴマだ!!」と言うと、会の方がすかさず望遠鏡をセットしてくれました。覗き込むと、喉の下が赤オレンジ色のきれいな日の丸エプロンをしたオスのノゴマを見ることができました。ノゴマを見たみんなは、今回参加して良かったと感激したと思います。



ノゴマ 筆者撮影

少し時間を過ごした後、パラパラと雨が降り出しましたが、小雨だったので奥にある最終目的地の山本橋まで行きました。そこはカワセミが見られると期待していましたが、残念ながら見ることはできませんでした。

ウグイスの声が聞こえてきたので、探していると急に雨あしが強まってきたので、予定時間より早めに集合場所に戻るになりました。

1時間くらい早めに終わった探鳥会ですが、29種もの鳥を見つけられ、会の方から色々なことを教えてもらい、楽しい会となりました。

鳴き声や飛び方で何の鳥かわかるようになるために、私も勉強して、また参加したいと思います。

【記録された鳥】カルガモ、キジバト、アオサギ、カッコ

ウ、ハリオアマツバメ、オオセグロカモメ、トビ、ハイタカ、アリスイ、アカゲラ、チゴハヤブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ウグイス、エゾセンニュウ、コヨシキリ、コムクドリ、ノゴマ、ノビタキ、ニュウナイスズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオアカ、アオジ

以上29種

【参加者】阿部直子、阿部弘美、石井克文・浩子、石川真奈美、石塚 肇・鈴子、岩井幸子、臼田 正、小丸香奈、河合千賀子、菊池志津子、北山政人、小嶋俊幸、齊藤潤太郎・律子、佐藤香織、佐藤直記・博子、佐野純子、竹田芳範、田原哲也・美幸、辻 雅司・方子、土田敏子、道場 優、鳥谷峰 修・心、納谷明美、西窪翠子、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城、平澤路生、福島 文、門馬公生、横山加奈子、吉永和世、吉見孝夫・紫乃

以上41名

【担当幹事】辻 雅司、横山加奈子

厚 別 川

2023. 6. 11

札幌市白石区 石井 克文



ノビタキの幼鳥 武藤幹太さん撮影

野鳥観察はウォーキングを兼ねて近所の公園や百合が原公園、平岡公園などで行う程度でしたが、毎年新しい野鳥の数が増えるにつれてハマっている観察歴約2年のビギナーです。

愛護会の探鳥会へは今年3回目の参加ですが、河川敷は初で、どんな鳥が見られるか楽しみに参加しました。当日は、多少風がありましたが、天気も良く、遠くに恵庭岳などの山並もきれいに見える、探鳥会日和となりました。

左岸に到着すると、オオヨシキリが大きな声で鳴いているのですが、残念ながら私は姿の確認はできませんでした。一方で、ノビタキがオオイトドリの上などに確認ができました。幼鳥も確認でき、子育て最中とのことでした。

時々、右岸の木々のほうからカッコウの鳴き声が聞こえ、右岸を観察する時に期待しましたが、お目にかかれませんでした。鳴き声は何度も聞こえたので、今後チャン

スはありそうです。

対岸の観察では、アリスイの鳴き声を初めて聞くことができ大変貴重でしたが、残念ながら姿は見るできませんでした。次回に期待です。また、個人的にお気に入りの鳴声であるエゾセンニュウの独特の鳴き声も聞こえましたが、姿は見え。いつかは見たいものです。

今回の探鳥会は堤防から河川敷を望めるのでとても観察しやすく、また、対岸側には、林があり背の高い木々もあるので、堤防の両サイドで色々な野鳥が観察できるいい場所だと思いました。

幹事の方々には素早く見つけた野鳥をスコープで見せていただき、野鳥の特徴などのお話もいただきいつもありがとうございます。また参加しますのでよろしくお願い致します。

【記録された鳥】 マガモ、キジバト、アオサギ、カッコウ、オオジシギ、トビ、アリスイ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、センダイムシクイ、エゾセンニュウ、オオヨシキリ、ムクドリ、コムクドリ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオアカ、アオジ

以上28種

【参加者】 天崎比良子、荒木良一、石井克文・浩子、石塚肇・鈴子、今村三枝子、岩井 茂、大田原勝美、大西智子、栗林宏三、小西美美枝、小畠俊幸、齊藤潤太郎・律子、佐川健次、品川睦生、高橋貞夫、高橋洋子、田原美幸、辻雅司・方子、辻本睦美、土田敏子、坪田亜希子、道場 優、中村 隆、納谷明美・友美、畑 正輔、早坂泰夫、樋口孝城、平澤路生、福士一徳、本間康裕、南 貴和子、武藤幹太・大翔、山本育子、吉田慶子

以上40名

【担当幹事】 中村 隆、早坂泰夫

野 幌 森 林 公 園

2023. 6.18



アオバト 内山英晋さん撮影

当会のホームページを見たという大阪から旅行中の3人が参加しました。アオバトが目の前に飛来し、多くの参加者がじっくりと観察することができました。大沢の池ではマガモの親子の様子が見られました。

【記録された鳥】 オシドリ、マガモ、カイツブリ、キジバト、アオバト、アオサギ、ツツドリ、トビ、コゲラ、ヤマゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、キビタキ、イカル、アオジ

以上28種

【参加者】 荒木良一、石塚 肇、磯田憲和、今村三枝子、内山英晋、遠藤心桜、鎌田要子、小西美美枝、佐川健次、品川睦生、辻 雅司・方子、辻 由美・祥子、富川 徹、納谷明美、西山 茂・智子・典子、畑 正輔、早坂泰夫、平田修二、松原寛直・敏子、右谷 誠、南 貴和子、宮崎美子、武藤幹太・大翔、山本育子、横山加奈子、吉田 功・美子、吉田慶子

以上34名

【担当幹事】 畑 正輔、横山加奈子

福 移

2023. 6.25

札幌市東区 鹿戸 章子



アリスイ 平澤路生さん撮影

以前より野鳥観察に関心があり、今回初めて探鳥会に参加させていただきました。とは言っても、特別に野鳥の知識を入れたりせず、その場の出会いを楽しみたいと気楽に臨みました。当日は、お天気も良く素晴らしい青空で、気温も25度を超え、暑いながらも気持ち良く歩くことができました。

1番目に会ったのは、スコープ越しで見た背中を向けたアリスイで、全くの初めましての茶色の鳥は何やら愛嬌のある風貌で印象的でした。その後、会員の皆さんが次々と野鳥たちを見つけ、自分も一緒になって双眼鏡で覗いて見るものの、全然見つけれません。

そんな時、色々な方がスコープを見せて下さって、様々な野鳥たちの姿を見ることができました。ノビタキ、ホオアカ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、オジロワシなど、手書きメモを見る限り11種類の野鳥をこの目で確認できました。

なかでもダイサギの白い美しさには驚きました。住まいからそう離れていないこの場所に、あんなに大きくて綺麗な鳥がいるなんて、とても感動的でした。そして餌を捕るためか、全く動きのないアオサギは肉眼でも見えました。

歩きながら、野鳥たちの雄雌の特徴や名前の由来などのお話も聞けて勉強になりました。長年観察されてきた方から、同じ場所でも昔と今の見られる野鳥たちが変わってきたというお話も環境問題とも繋がって思うところもありました。

これから、山や水辺の近くを通る時、これまで以上に野鳥たちに意識が向くでしょうし、積極的に野鳥たちを学んで、出会いに行けたらいいなと思っています。この度は素敵な機会をありがとうございました。

【記録された鳥】カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、カッコウ、コチドリ、オオジシギ、トビ、オジロワシ、アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ショウドウツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、シマセンニュウ、オオヨシキリ、コヨシキリ、コムクドリ、ノビタキ、ニュウナイスズメ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオアカ、オオジュリン
以上30種

【参加者】荒木良一、石塚 肇・鈴子、今村三枝子、大表順子、國本昌秀、栗林宏三、小林弘輝・尚美、小島俊幸、小本春香、佐藤直記・博子、佐野純子、鹿戸章子、高橋きよ子、高橋宣子、田原哲也・美幸、田守真一・敦子、辻 雅司、土田敏子、恒本英子、鳥谷峰 修・心、豊口笑子、西窪翠子、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、樋口孝城、平澤路生、平田修二、松原亜希子、武藤幹太・大翔、村田睦子、森本玲子、山階眞紀子、横山加奈子、吉永和世
以上42名

【担当幹事】辻 雅司、原 美保

野 幌 森 林 公 園

2023. 7. 9

キビタキ、オオルリ、クロツグミの歌を聞きながらの森歩きとなりました。大沢の池では、抱卵や造巢中のカイツブリを確認しました。いずれも見通しの良い浮草の上です。

帰路のカツラコースで、クマゲラが巢立ち雛に給餌する場面を一瞬、見る事が出来ました。ゴジュウカラやハシブトガラスの巢立ち雛も見られ、この時期らしい探鳥となりました。



浮巢の上のカイツブリ 早坂泰夫さん撮影

【記録された鳥】カイツブリ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、アオジ
以上19種

【参加者】大橋路子、國本昌秀、小西美美枝、小島俊幸、佐藤郁子、辻 雅司、中村 隆、畑 正輔、早坂泰夫、平澤路生、辺見敦子、松原寛直・敏子、森田康志、山本育子、横山加奈子、吉田慶子、吉田康子、吉永和世
以上19名

【担当幹事】中村 隆、早坂泰夫

表紙の鳥

ノゴマ



もともとカメラが趣味で、5年ほど前から鳥も可愛いなと思うようになりました。自宅近くの野幌森林公園でバードウォッチングを始め、春・冬のフクロウに魅せられました。愛護会には知人に勧められて3年前に入会しました。

石狩川河口(石狩市・はまなすの丘公園)にはノゴマが見たくて通い、この日初めて出会うことができました。3時間ほどかけて、ぐーりと一周したのですが、数か所で綺麗にさえずる声でしたので気づくことができました。特に喉の赤が可愛くて、わくわくしました。野鳥に関して初心者で、わからないことが多いのですが、思い出深い一日となりました。

鎌田要子(札幌市厚別区)



【いしかり調整池】

2023年10月1日(日)

この時期、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリのほか、ガン・カモ、サギ類などの水鳥を主に観察します。また、水鳥たちを

狙って猛禽類もやってきます。11:30ごろに鳥合わせをして解散となります。

集 合：いしかり調整池駐車場 9:30

交 通：公共の交通機関はありません。

【野幌森林公園】2023年10月8日(日)、11月5日(日)、
12月3日(日)

紅葉の秋から冬に向かう野幌森林公園を楽しみます。夏鳥はほとんど去り、カラ類やキツツキ類などが主になりますが、ツグミやマヒワ、レンジャク類などの冬鳥が訪れる時期となり春や夏とは違った趣があります。大沢の池では渡り途中のカモ類を楽しむこともできます。大沢園地で昼食、13:00ごろに大沢口に戻り、鳥合わせをして解散となります。

12月3日からは冬コース(ショート)となりますので、12:00ごろに大沢口に戻り、鳥合わせをして解散となります。

集 合：野幌森林公園大沢口 9:00

交 通：JRバス 新札幌駅発(文京台循環線新83)
「文京台南町」下車 徒歩10分

【測量山唐松平】2023年10月15日(日)

室蘭測量山直下の唐松平で、ハイタカ、オオタカ、ノスリなどのタカ類の渡りを楽しみます。タカ類の観察は晴天が必須条件ですが、ここでは、タカ類以外の鳥たちも観察することができます。11:30ごろに鳥合わせをして解散となりますが、引き続き探鳥を楽しむこともできます。

集 合：測量山唐松平 9:30

交 通：公共の交通機関はありません。
JR室蘭駅からタクシー利用可能

【ウトナイ湖】2023年11月12日(日)

晩秋のウトナイ湖にはこれから南に渡ったり、近郊で越冬したりするハクチョウ類、カモ類が見られます。渡り途中のマガンやヒシクイなども見られます。これら水鳥の観察を主体に湖畔をネイチャーセンターまで歩きます。12:00ごろにネイチャーセンターの駐車場に鳥合わせをして解散となります。

集 合：野生鳥獣保護センター前 9:30

交 通：道南バス 新千歳空港発(苫小牧行)
「ウトナイ湖」下車 徒歩5分

☆雨具、観察用具、筆記用具などお持ちください。

☆悪天候で中止の場合があります。

☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-876-8546
10:00~16:00(土日、祝祭日を除く)

鳥民だより

◆野鳥写真展 野幌でも開催◆



野鳥写真展 野幌森林公園自然ふれあい交流館

当会の2023年度の野鳥写真展は5月の札幌エルプラザでの開催後、野幌森林公園自然ふれあい交流館で6月1日から30日まで開催しました。出展作品は当会HP「Photo Album→WEB版野鳥写真展」で閲覧可能です。

◆「探鳥会ほうこく」写真と「会員一筆」募集◆

「探鳥会ほうこく」では、その日の参加者撮影の野鳥写真を募集しています。また、鳥見のエピソードを短文でつづる「会員一筆」も随時募集中です。写真1枚を添えて600字以内、メールでお寄せ下さい。

宛先はいずれもdayoriaigo@gmail.comへ。

◆新年講演会と小樽港探鳥会の実施◆

コロナ禍で中止してきた新年講演会を2023年1月13日(土)13:30から「かでる2・7」で開催します。貸し切りバス利用の小樽港探鳥会は1月21日(日)に開催します。詳しくは12月発行の野鳥だよりでお知らせします。

【新しく会員になられた方々】

田原 哲也・美幸(岩見沢市)

関根 良輔・静子・大輔(江別市)

宮崎貴美子(岩見沢市)

河井 大輔(札幌市南区)

吉田 康子(江別市)

飯泉 真菜(札幌市白石区)

【北海道野鳥愛護会】年会費 個人 2,000 円、家族 3,000 円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 北海道自然保護協会気付 北海道野鳥愛護会 ☎(011)876-8546

HPのアドレス <https://aigokai.org>